

事業主体者

公益社団法人みらいサポート石巻

住所 宮城県石巻市中央2丁目8番2号

電話 0225-98-3691

URL <http://ishinomaki-support.com/>

事業概要

みらいサポート石巻は、平成23年3月11日の東日本大震災発生後に発足した「NPO・NGO連絡会」の事務局機能からスタートし、平成23年5月13日に前身となる「一般社団法人石巻災害復興支援協議会」として設立された。緊急時の「震災支援の連携」から現在は「震災伝承の連携」へ活動をシフトしている。

被災地では東日本大震災後の復旧事業の進捗により、震災前や震災直後の様子がわかりにくくなっている。そこで防災・減災教育を目的とした教育旅行・研修プログラムを拡充して、震災の経験と教訓を伝えることにより、将来の防災・減災に資するとともに、被災地活性化の一助とすることが本事業の目的である。

「石巻津波伝承AR」アプリの主な機能は2つ。1つ目は「石巻まちあるき」機能。石巻中心部や女川、東松島など75地点について「震災前」「震災直後」「震災後」「未来図」の時系列で写真を比較し、かつ、AR技術の活用により使用者が透視度を変更し、目の前の風景と各時系列の写真を重ね合わせて見ることができる。

2つ目は、「津波浸水実績AR」。石巻市内の東日本大震災時の実績浸水深データベースからGPSを参照して、端末内蔵のカメラを通した風景と実績浸水深を重ね合わせて表示するARアプリである。

平成23年9月から「震災の語り部」を開始しており、平成26年3月から新しい震災学習プログラムとして「防災まちあるき」を開始した際に、「石巻津波伝承AR」を活用して参加者の理解促進に役立てている。

「防災まちあるき」(モデルコース所要時間:60分~90分)においては、適したルートを選定とガイド内容の検討を行ったうえで、コンテンツを作成している。したがって、網羅的な震災アーカイブではなく、来訪者に学んで体感してもらいたい内容に絞り込んだコンテンツ作成に注力している。

また、全地点で英語対応しており、翻訳コンテンツに限られる地域で外国人に震災を伝える有効なツールとなっている。

効果や課題

「石巻津波伝承AR」アプリのダウンロード数は約16,000回、「防災まちあるき」参加者は約7,500人である(平成23年4月~平成30年11月)。また、参加者にアンケートを行ったところ高い評価が得られた。本事業は、平成26年度地域情報化大賞特別賞を受賞した。

多言語対応のためのコンテンツ追加、ジオフェンシング(特定エリアに入るとコンテンツが表示される)機能の追加等の計画はあるが、開発予算が「防災まちあるき」を始めとした震災学習プログラムの事業収益だけでは捻出できない。事業収益の拡大策を検討中。

事業費

平成25年度:約170万円(iOS版のみ)

平成26年度:約260万円(Android版、英語対応、機能追加等)

過去(震災直後)



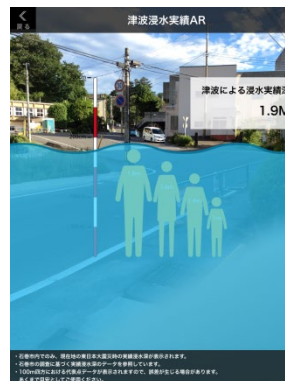
現在



未来/イメージ



「石巻津波伝承AR」の1地点「市役所大通り南」で参照できる過去・現在・未来の写真



石巻小学校前での津波浸水深実績AR表示例

